

春未だ浅き

(昭和十二年第三十回記念祭歌)

平城鷹雄君 作歌
穴戸昌夫君 作曲

一

春未だ浅き白楊の
雪解の小路たたずめば
しばし聞けとて私語の
木の間もれくる夕嵐

二

あはく足げに咲き出でし
おぼろおぼろの水芭蕉
なつかしの原始杜肩とりて
楳火をめぐり歌はなん

三

長髪頬に戯むれて
昔変らぬ風なれや
今したたへん三十回の
青史をかざす記念祭

四

美酒の夜は更け行けど
尽きぬ男子の黒潮を
契の杯に汲み交はし
常縁を祝ふ自治の宴